

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-297013

(P2000-297013A)

(43) 公開日 平成12年10月24日 (2000. 10. 24)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

識別記号

F I

テームコード (参考)

A 6 1 K 7/025  
7/027

A 6 1 K 7/025  
7/027

4 C 0 8 3

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号

特願平11-142187

(22) 出願日

平成11年4月13日 (1999. 4. 13)

(71) 出願人 591230619

株式会社ナリス化粧品

大阪府大阪市福島区海老江 1 丁目11番17号

(72) 発明者 和田 光弘

大阪府大阪市福島区海老江 1 丁目11番17号

株式会社ナリス化粧品内

Fターム (参考) 4C083 AA122 AC012 AC022 AC372

AD411 AD412 CC13 DD11

EE01 EE06 EE07

(54) 【発明の名称】 口紅組成物

(57) 【要約】

【構成】本発明の口紅組成物はグルテン、又はその構成成分であるグルテニン、グリアジンの1種又は2種以上を配合することを特徴とする。

【効果】本発明は色落ちし難く化粧持ちが良好で、且つ使用感触的に乾燥感等の違和感がなく経時的色変化のない口紅組成物を提供する。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 グルテン、又はその構成成分であるグルテニン、グリアジンの1種又は2種以上を配合することを特徴とする口紅組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は色落ちし難く化粧持ちが良好で、且つ使用感触的に乾燥感等の違和感がなく経時的色変化のない口紅組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】 口紅は多くのメイクアップ化粧料の中にあって、その化粧効果の役割は特に重要なものと言える。すなわち、口紅さえあれば他のメイクアップ化粧料がなくとも、血色の良い健康的な表情、あるいは華やかで優雅な表情など様々な演出ができると言っても過言ではない。更に最近のメイクアップの一つの傾向として、眉をかき、口紅を塗るだけという程度のライトなメイクアップが働く女性や若い女性の間で見られるようになってきている。その様な状況にあって、口紅の重要性は更に増し、また多忙な現代女性は化粧直しの時間を惜しみ、口紅の色落ち、持続性にも大きな関心と欲求を持つようになってきたのである。その様な状況下において、従来口紅の持続性を向上させるべく様々な工夫が行われてきた。例えば、高粘着性成分若しくは着色剤を多量に配合する方法であるが、この方法では飲食等による色落ちは改善されない。次に染着性を有する着色剤を配合する方法であるが、この方法では口唇に塗布する口紅の色系がどんな色であっても、染着し口唇に残る着色剤は限られた色系であるので、どんな色の口紅を塗布しても時間が経てば同じ色の口唇となってしまう、口紅塗布時と時間が経過してからの色変化が問題となる。また、揮発性成分を配合し揮発後残存する成分の付着性を高めようとする方法があるが、使用感触的に乾燥感を伴うなど満足できるものではない。以上の様に従来様々な工夫が行われてきたが満足できるものではなかった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 本発明は色落ちし難く化粧持ちが良好で、且つ使用感触的に乾燥感等の違和感がなく経時的色変化のない口紅組成物を提供することを目的としている。

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明者らは、前記技術的課題を達成すべく鋭意研究の結果、グルテン、又はその構成成分であるグルテニン、グリアジンの1種又は2種以上を配合することにより、その口紅組成物が色落ちし難く化粧持ちが良好で、且つ使用感触的に乾燥感等の違和感がなく経時的色変化のないものとなることを見だし、本発明を完成するに至った。

【0005】 すなわち、本発明は、化粧料全体の重量を基準にして、グルテン、又はその構成成分であるグルテ

ニン、グリアジンの1種又は2種以上を0.1重量%～50重量%配合することを特徴とする。好ましい配合量は5重量%～30重量%である。この配合量は、0.1重量%未満では目的とする口紅の化粧持ち効果が十分ではなく、50重量%を超えると感触が悪化し、いずれも好ましくない。

【0006】 本発明にいうグルテンとは植物性の蛋白質で、例えば、小麦やライ麦等の穀類の種子から抽出されている。従来、主に麩等の原料として食品に利用されており、原料として市販されているので、市場で容易に入手できる。その性状としては非常に強い粘着性を有しており、その構成蛋白がグルテニン、グリアジンである。

【0007】 本発明の口紅組成物は、必須成分としての液体の油性原料と着色料に加えて前記グルテン、又はその構成成分であるグルテニン、グリアジンの1種又は2種以上を含み、実質的に水を含まない、非水系口紅組成物であることが好ましい。

【0008】 本発明の口紅組成物が色落ちし難く化粧持ちが良好で、且つ使用感触的に乾燥感等の違和感がなく経時的色変化のないものとなる理由は明確ではないが、グルテンあるいはグルテニン、グリアジンは水分と接触し水分を含むと粘着性のある弾力性物質に変化する。口唇は常に適度の水分を保持しているため、この変化が口唇に塗布された非水系口紅組成物の中でおこると、粘着性のある皮膜となって口紅組成物の口唇への付着力を高めることになるものと推測される。また、この皮膜は弾力性があり水分を含むため使用感触的に乾燥感等の違和感がないものと推測される。

【0009】 本発明にいう液体の油性原料としては、一般に化粧料に用いられるものであれば何でもよく、例えば次のものがあげられる。流動パラフィン、流動イソパラフィン、スクワラン等の炭化水素類；ホホバ油等のロウ類；ヒマシ油、オリーブ油等の油脂類；イソプロピルミリスレート等のエステル類；ジメチルポリシロキサン等のシリコン類等々があげられる。これら液体の油性原料の配合量は通常1～90重量%、好ましくは20～70重量%である。

【0010】 本発明にいう着色料としては、例えば次のものがあげられる。口紅に使用が認められている法定色素の他、酸化チタン、酸化鉄等の無機顔料；ナイロンパウダー、結晶セルロース等の有機顔料；雲母チタン等の複合顔料等々があげられる。また、これらの着色料をシリコン、金属石鹸、高級脂肪酸等々で表面処理したものも用いることができる。これら着色料の配合量は通常0.1～50重量%、好ましくは5～20重量%である。

【0011】 口紅にはスティック状、流し込み状（金皿等）、液状等様々な形状のものがあるが、本発明の口紅組成物はその何れにも応用できる。本発明の口紅組成物には、前記成分の他、スティック状、流し込み状、液状

等の形状の違い等目的に応じて、本発明の効果を損なわない限りにおいて、固形の油性原料をはじめとする前記以外の油性原料、界面活性剤、抗酸化剤、薬効成分、紫外線吸収剤等々を配合することができる。

#### 【0012】

【実施例】以下、実施例をあげて本発明を具体的に説明する。なお、本発明はこれに限定されるものではない。また、これに先立ち評価項目および方法に関して詳述する。女性パネラー80名を無作為に20名毎の4グループに分け、各実施例共、実施例試料と比較例試料とを各

#### (成分)

	実施例 1	比較例 1
セレシン	10	13
カルナウバロウ	5	6
マイクロクリスタリンワックス	5	6
液状ラノリン	23	30
スクワラン	27	35
グリアジン	20	
着色料	10	10
計	100	100

評価結果（色落ちが目立たないと答えた人数）

- ・実施例1 18
- ・比較例1 3

なお、実施例1、比較例1共に乾燥感等の違和感や経時での色変化を感じたパネラーは皆無であった。

#### 【0014】 (2) 実施例2：流し込み状（金皿等）

#### (成分)

	実施例 2	比較例 2
セレシン	10	11
カルナウバロウ	3	3.5
マイクロクリスタリンワックス	3	3.5
スクワラン	46	51.5
リンゴ酸ジイソステアリル	20	22.5
グルテン	10	
着色料	8	8
計	100	100.0

評価結果（色落ちが目立たないと答えた人数）

- ・実施例2 16
- ・比較例2 0

なお、実施例2、比較例2共に乾燥感等の違和感や経時での色変化を感じたパネラーは皆無であった。

々のグループに配布し、それぞれが塗布し2時間経過後全員が同じ食事を摂り、試料の落ち具合を各自の所見で判定し、実施例試料と比較例試料との落ち具合の優劣を示した。

#### 【0013】 (1) 実施例1：スティック状口紅

次に示す配合量の成分を使用し、スティック状口紅を調製した。なお、比較例1として実施例1からグリアジンを除き同量の着色料を配合した従来のスティック状口紅を調製した。

#### (配合量（重量％）)

	実施例 1	比較例 1
セレシン	10	13
カルナウバロウ	5	6
マイクロクリスタリンワックス	5	6
液状ラノリン	23	30
スクワラン	27	35
グリアジン	20	
着色料	10	10
計	100	100

口紅

次に示す配合量の成分を使用し、流し込み状（金皿等）口紅を調製した。なお、比較例2として実施例2からグルテンを除き同量の着色料を配合した従来の流し込み（金皿等）状口紅を調製した。

#### (配合量（重量％）)

	実施例 2	比較例 2
セレシン	10	11
カルナウバロウ	3	3.5
マイクロクリスタリンワックス	3	3.5
スクワラン	46	51.5
リンゴ酸ジイソステアリル	20	22.5
グルテン	10	
着色料	8	8
計	100	100.0

#### 【0015】

【発明の効果】以上の記載のごとく、本発明は色落ちし難く化粧持ちが良好で、且つ使用感触的に乾燥感等の違和感がなく経時的色変化のない口紅組成物を提供することは明らかである。